

月刊の～の～

2025

8 月号
vol.44



大野の水について知りたい！
水に関わる人や場所を訪ねて



市内16箇所にある地下水位の
掲示

8月1日は「水の日」、そして8月1日～7日は「水の週間」ってご存知でしたか？それにちなんで、今月は「水」をテーマに皆さんにお話を聞きました。県外から大野に移り住んできた筆者がまず驚いたこと。それは各家庭で使われている水が、地下からポンプでくみ上げられた「地下水」だったこと。上水道しか知らなかった私にとっては、まさにカルチャーショックでした。そしてもうひとつ驚いたのが、市内のいたるところにある「本日の地下水〇m〇cm」と書かれた看板。毎日、市民の方が地下水位を計測しているそうで、「なんだこれ！？」と目が釘づけに。

大野の名水は、野菜や日本酒、銭湯など、さまざまなかたちで私たちの暮らしを支えてくれています。けれど、こんなに恩恵を受けているのに、「水」のことをあまり知らない…。そこで今回は、「水」にまつわる場所や人を、あらためて訪ねてみました。

「大野の水」

ってすごい！！

地下水を

測ってみる！

編集部メンバーに加え、「私も一緒に話を聞きたい！」と言ってくれた仲間と3人で、まず向かったのは「越前おおのの水のがっこう」。ここは、大野の水について展示などを通して学べる施設です。家のすぐ近くにありながら、実は訪れるのはこれが初めてでした。当日は、水のがっこうの職員・細川さんに、地下水の計測の様子を見せていただきました。

施設の前にある計測用の管。そのふたを開け、専用の機械をスルスルと中へ下ろしていきます。メジャーの先についた機械が地下水の表面に触れると、「ビビビビッ！」という大きな音が鳴ります。このときのメジャーの長さ、その日の地下水位の数値になるのです。こうした計測は、市内16か所ですべての皆さんの毎日行い、その結果を市へ報告しているとのこと。作業自体はとてもシンプルですが、それを毎日、休まずに続けているという事実、とても驚かされました。裏面では、実際に地下水位の計測をしている方のお話も紹介します！

裏面へ続く！

8月 月間予定表

月刊の一の一を作っている横町編集部と
大野の印刷・編集室みなとの活動予定をご紹介します！

横

毎週水曜

水槽水替えの日

場所：横町スタジオ
時間：17:00-18:00
内容：横町水族館メンバーが水槽の水替えを行います



横み

8/2 (土)

タトゥーシールワークショップ

場所：大野の印刷・編集室 みなと
時間：10:00-12:00
内容：タトゥーシールをみんなで作ってみよう！

み

8/2 (土)

印刷室オープン日

場所：大野の印刷・編集室 みなと
時間：13:00-16:00
内容：予約不要の印刷ワークショップあり！

横み

8/9 (土)

みんなワークショップ

場所：大野の印刷・編集室 みなと
時間：10:00-
内容：まちを歩いて、物語を考えてみよう！

み

8/11 (月)

横町盆踊り大会

場所：横町スタジオ
時間：17:00-21:00
内容：年に一度の横町通りの盆踊り大会！

横

…横町編集部の予定

み

…大野の印刷・編集室 みなとの予定

月刊の～の～って？

「月刊の一の一」は、関西大学の研究拠点「横町スタジオ」を運営する横町編集部が発行するおたよりです。「まちを横から見る」というコンセプトで、「の～の～」と人に話しかけながら、毎月いろんな大野を紹介します。読み手である大野の人と一緒に作ることを大切にしているので、まちづくりや、編集・デザイン等に関心がある人はぜひご連絡ください！

横町編集部
Instagram



横町スタジオを使ってみませんか？

コワーキングスペースでお仕事したり、自分で企画したイベントを開いてみたり、DIYでものづくりしたり…横町スタジオは、いろんな過ごし方ができる場所。ピンときた方はご連絡を↓

yokomachi.hensyubu@gmail.com



水に関わる人を訪ねて

実際に水に携わるお二人にも話をお聞きました。一人目は大野の水道設備のお仕事をされている山岸さん。もう一人は、十年以上地下水位の計測をしている城地さん。お二人から聞くと、初めて知ることばかり。その中でも印象的だった部分を紹介します。

水を届ける人

九頭竜設備株式会社

社長

山岸さん



“まちなかで水がもっと見えたらいいのに、”

「名水のまち」と言われる大野ですが、まちなかで水の流れを目にする場所って意外と少ないと思うんです。僕は水道設備の仕事をしていますが、住宅に伺った際に水を汲み上げるポンプがある位置を聞いても中には答えられない方もいらっしゃるって、市民と水の距離がやや遠いように感じる瞬間もあります。地下水を汲み上げるためにどのくらいの深さの井戸を掘るかは地形によって変わることだったり、扇状地にあたる城下町エリアから離れた村部では綺麗な水にアクセスしづらいことなど、大野にはさまざまな水にまつわる事情があります。昔は五番通り商店街の中央にも上水路が流れていましたが、豊かで綺麗な水が誇りのまちなので、せっかくなら水が見える場所がもっと増えてもいいのになと感じます。



山岸さんにお話を伺っている様子

水をはかる人

春日公園地点計測

城地さん



“秋の時期は水位が減り少し不安になる”

おばあちゃんから引き継いで2011年から春日公園の地下水の計測を続けています。お天気が続くと、水位が毎日6cmほどずつ下がっていったり、雨が降るとぐっと上がったり。こうした変化は、日々計測しているからこそ見えてきました。水位は季節によっても変わります。例えば秋、稲刈りが終わって田んぼに水がなくなる時期には、地下水位が6〜7mくらいまで下がることも。普段は4〜5m前後なので、その時期は「水が枯れてしまわないかな…」と少し不安になります。近所の方も掲示を見に来て、「最近ちょっと水が細いね」「水が出にくいんや〜」と声をかけてくれます。毎日の散歩の途中で春日公園の地下水位をメモしているという方もいます。水位は、地域の人にとっても身近な関心事なんですね。



手書きでメモされている地下水位の記録

編集部memo

水位の計測を見て、お二人から話を伺ったことで、「水をみんなで共有している」という感覚がより強くなりました。もし万が一、地下水が汚染されるようなことがあれば、それを共有している私たちの生活そのものが危ぶまれる。改めて、大野というまちは、そんな「共同体」なんだと気づかされました。他の市町では、たとえ同じエリアに住んでいても、「共同体である」という意識を持つのは、なかなか難しいかもしれません。でも、同じ水を共有しているということは、その意識を少し変えてくれるように思います。そういった意味で、山岸さんがおっしゃっていた「見えるようにすること」、そして地下水位の掲示といった取り組みは、「水を共有している」という意識を育むための大切な手がかりになるのではないかと思います。お話を聞かせてくださった皆さま、本当にありがとうございました。

よこ道、わき道、まわり道。

のーのーNEWS

建築業界にとっての怖い話
作:パトシ



おたより求ム!

川柳

写真

悩み

絵

読者投稿コーナーへのおたよりをお待ちしております。基本的にはなんでもウェルカムです。投稿いただいたおたよりは、月刊ののーで紹介させていただきます。横町スタジオに設置されているおたより箱または右記の二次元バーコードから投稿してください。



声から物語を想像してみる時間

6月21日に横町編集部主催の民話ワークショップの第1回目が開催されました。講師としてお迎えしたのは、福井県内で昔ばなしの語り手として活躍されている坪川さん。前半は、坪川さんが語る物語をみんなで聞きました。後半は、参加者の皆さんから出た質問を通じて、民話について学びを深める時間となりました。絵本のように「見る」のではなく、「声で聞く」物語。聞き手それぞれが情景を思い描き、想像力をたっぷりと働かせる、豊かな時間になりました。



(写真下)「おはなしのろうそく」を灯してから、物語がスタートします

桜の木の薪でピザを焼いてみる!

7月5日に乾側公民館にて「薪で焼くピザづくりワークショップ」を開催しました。乾側幼稚園の敷地内にあった桜の木を伐採して活用する「乾側桜の木活用プロジェクト」の一環として、昨年から実施しています。ピザ作りの講師は乾側出身で「CONOMARU KITCHEN」店主の此下さん。ピザが焼き上がった瞬間はとても盛り上がり、お子さんたちが一斉に集ってくる姿が印象的でした。



焼き上がりの目安は「ピザの耳が硬くなった頃」とのこと

横から失礼!

短歌

今月の投稿

その列に
違和感もなく
終えた午後
遅れて気づいた
大きなミスを
(純鶏 10本)

集中してやっている時は気づかなくても
離れて見ると気づくことがありますね。(編集部)

気まぐれ
投稿コーナー